

大船渡湾内観測結果(No.3)

“今月の話題”

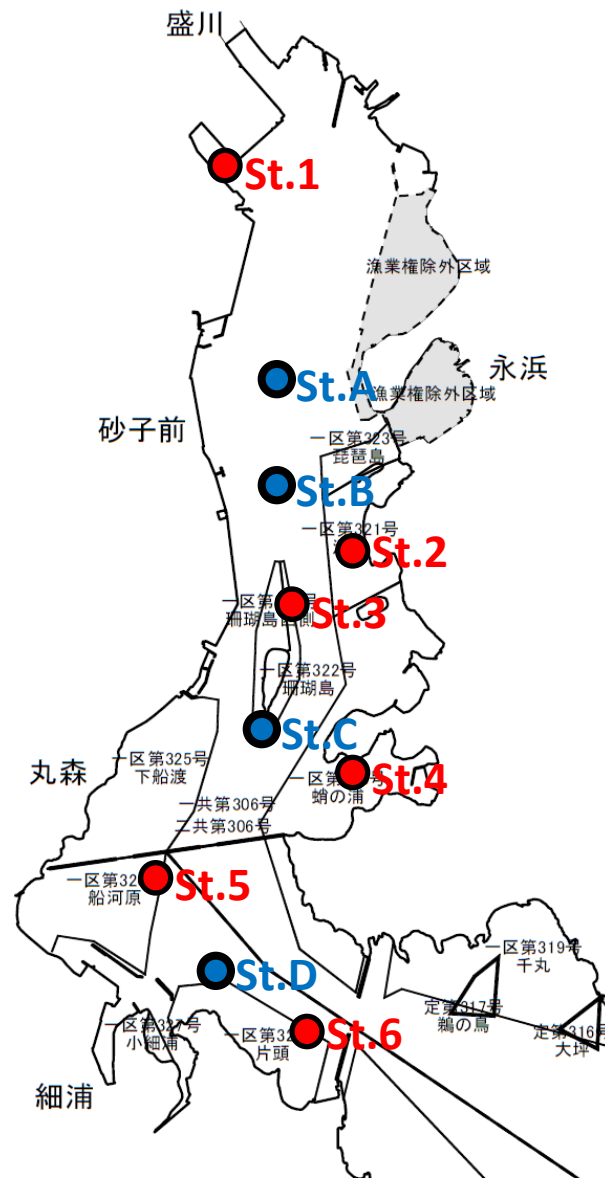
湾内の水温(2.5m、10m層)は12~15°C台であり、例年よりも最大で1°Cほど高くなっていますが、多くの定点で例年通りの値となっています。表面の塩分が27.8~30.2と、やや低くなりました。これは調査前の降雨による河川流量の増加の影響とされます。

6月10日に行った大船渡湾内観測結果をお知らせします。

透明度は4.0~10.0mであり、平成18年度から平成30年度の平均値と比べて、+1.0~+3.7mの範囲内でした。

水温はSt.1~6の水深2.5mが13.8~15.1°C、水深10mが12.7~13.3°Cでした。平成18年度から平成30年度の平均値と比べて、水深2.5mが-0.6~+0.6°C、水深10mが+0.3~+1.0°Cの範囲内でした。

海域名:大船渡湾 調査担当:水産技術センター、大船渡水産振興センター							
観測点(St.)		1	2	3	4	5	6
観測年月日	令和元年6月10日						
観測時刻		10:31	10:44	10:08	9:50	9:37	9:20
天候	くもり						
水深(m)		9.2	25.1	27.5	19.0	25.2	37.0
透明度(m)		4.0	10.0	10.0	-	10.0	10.0
水色		9	8	8	-	8	8
水温(°C)	表層0m	17.5	17.3	17.0	16.5	16.4	16.3
	水深2.5m	13.8	14.6	14.2	14.8	15.1	14.6
	水深10m	-	13.1	12.9	13.0	13.3	12.7
	海底上1m	13.0	11.2	10.8	11.8	10.7	9.5
塩分	表層0m	27.8	29.3	28.9	30.2	29.4	29.8
	水深2.5m	33.2	33.2	33.3	33.0	32.5	32.9
	水深10m	-	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7
	海底上1m	33.5	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8
溶存酸素飽和度(%)	表層0m	126.0	123.3	126.2	114.3	117.4	116.6
	水深2.5m	125.6	123.7	117.3	119.9	116.1	117.2
	水深10m	-	122.1	120.1	120.1	119.6	119.6
	海底上1m	122.5	115.5	87.8	113.0	92.8	64.2
クロロフィル(Chl-Flu.(ppb)) ※観測機器での測定値のため参考値扱い	表層0m	3.8	1.2	2.3	0.9	1.6	1.1
	水深2.5m	1.2	0.6	0.3	0.7	0.9	0.8
	水深10m	-	1.3	1.3	1.5	1.4	1.3
	海底上1m	1.5	1.3	0.9	1.6	2.1	1.1



©岩手県（漁業権連絡図）

図1 大船渡湾調査定点図

※St.1からSt.6において透明度の観測や表層0mから海底上1mの水質を観測した。
 St.AからSt.Dにおいて表層0mから水深10mの水質を観測した。

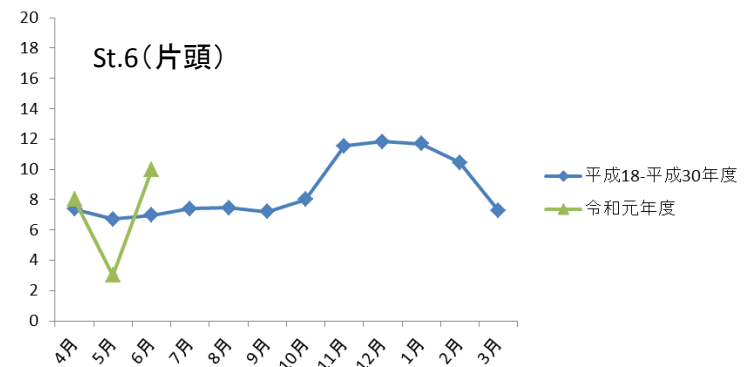
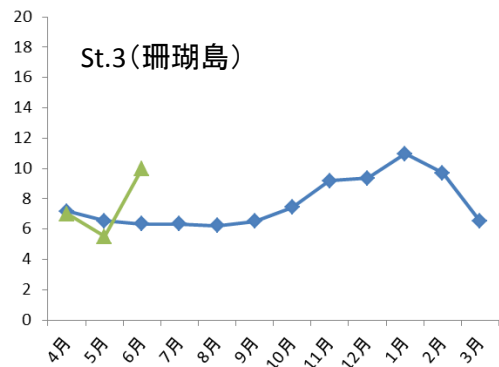
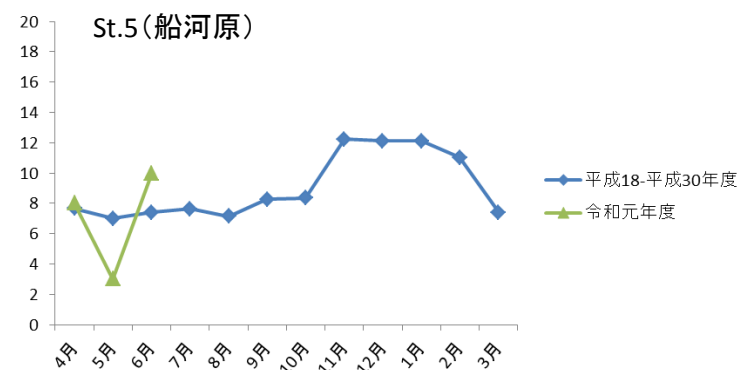
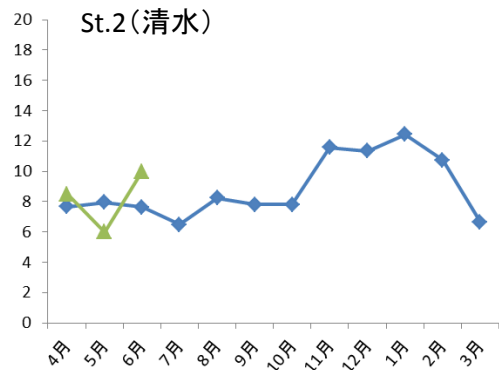
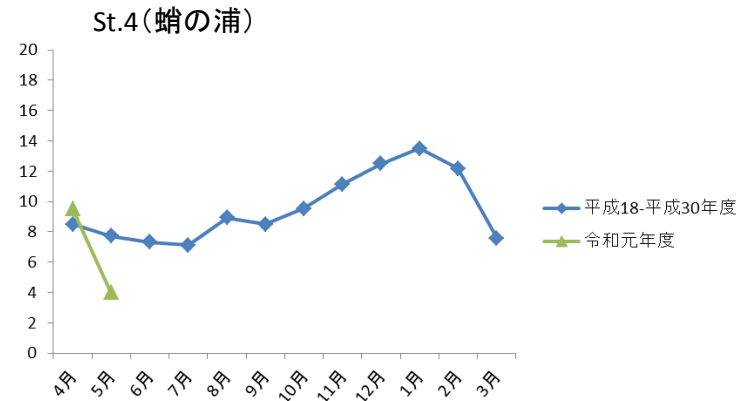
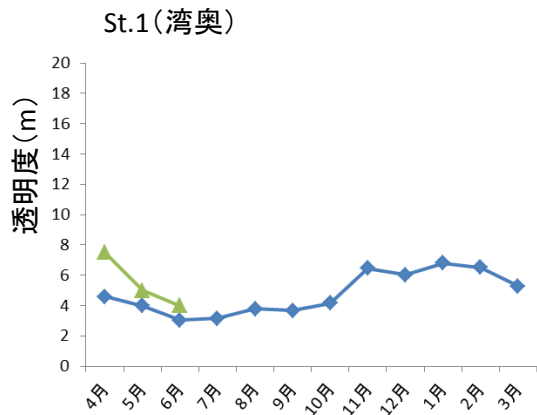


図2 透明度の推移

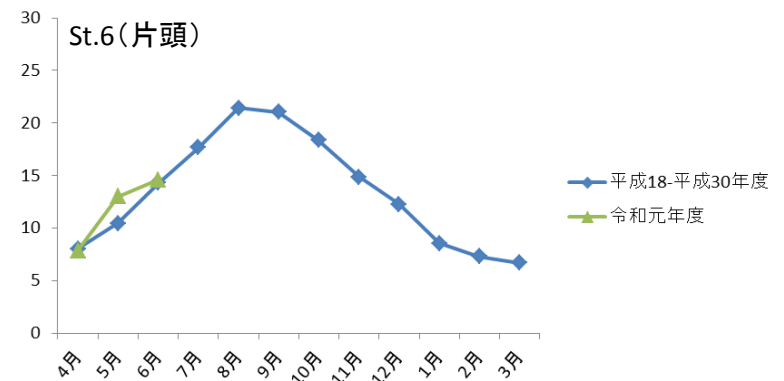
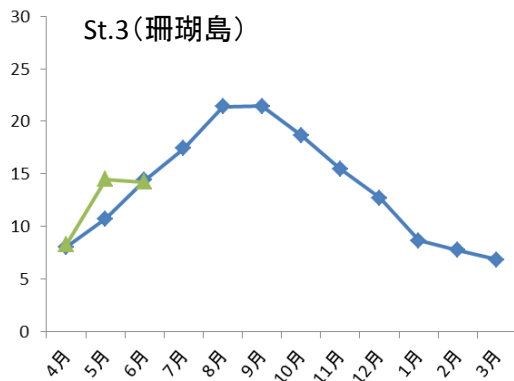
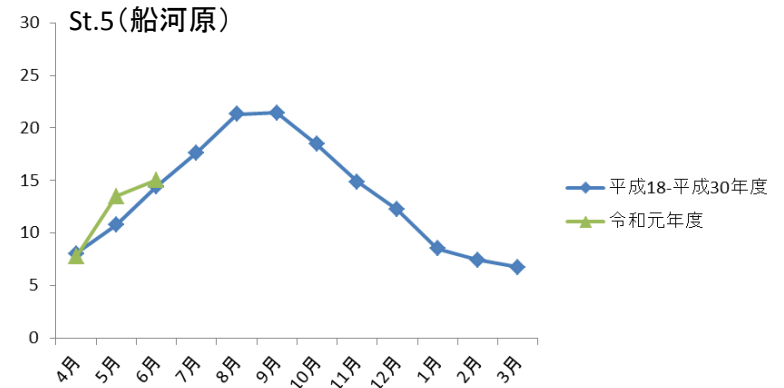
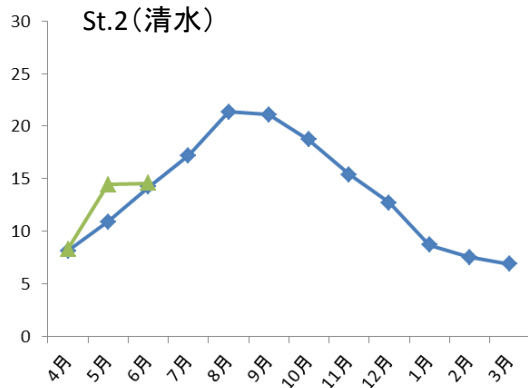
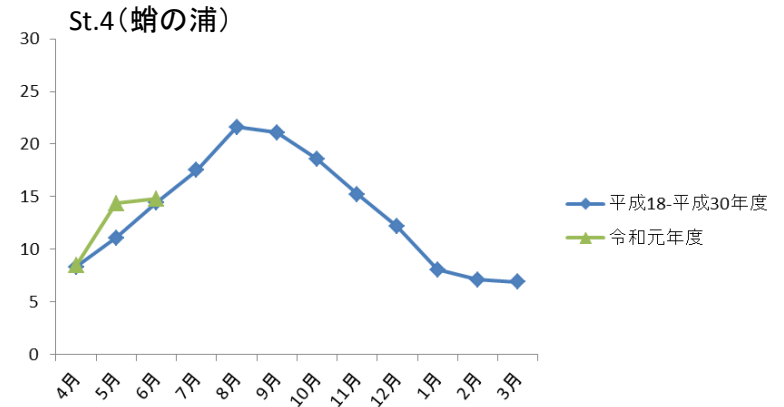
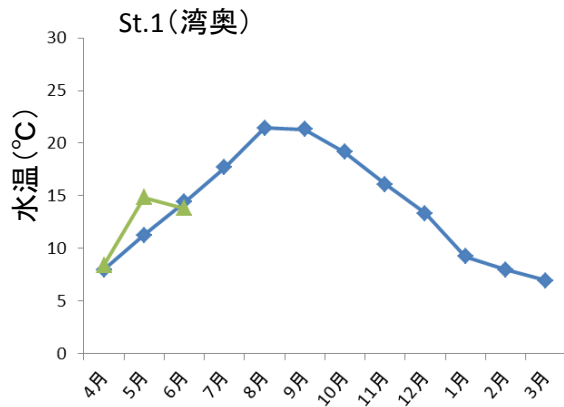


図3 水深2.5mの水温の推移

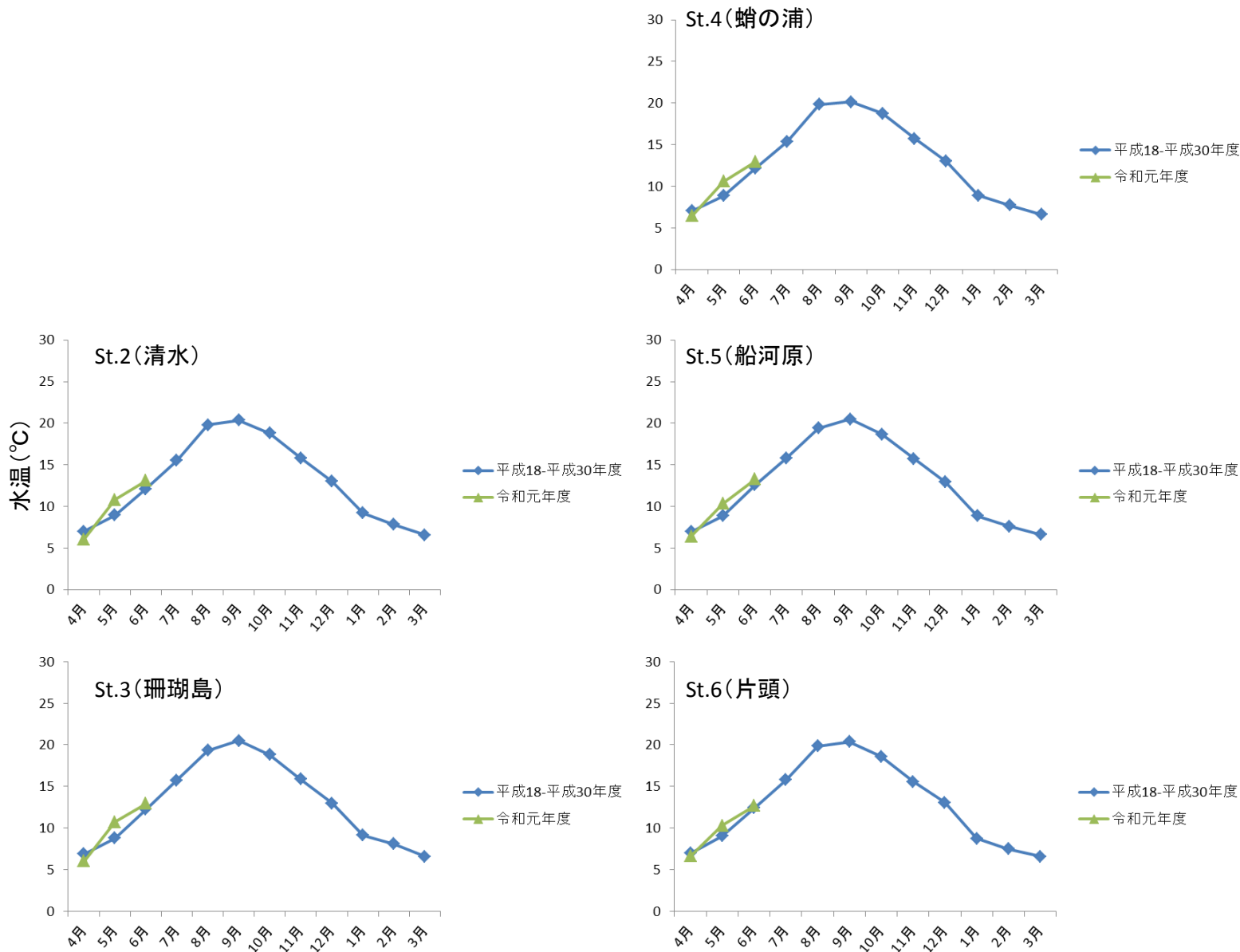
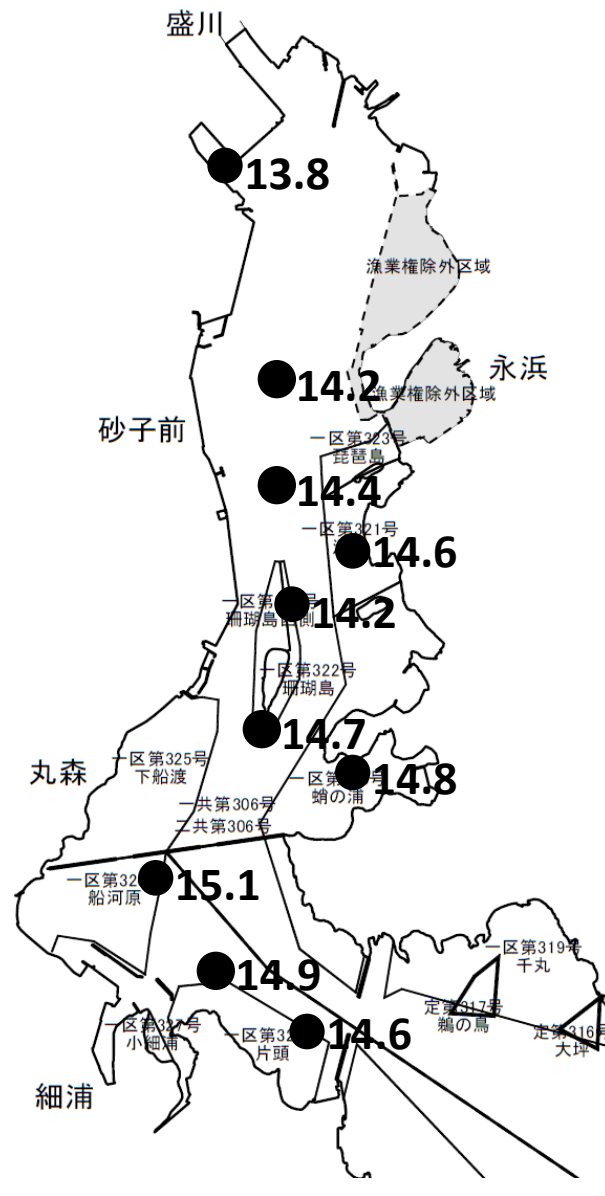


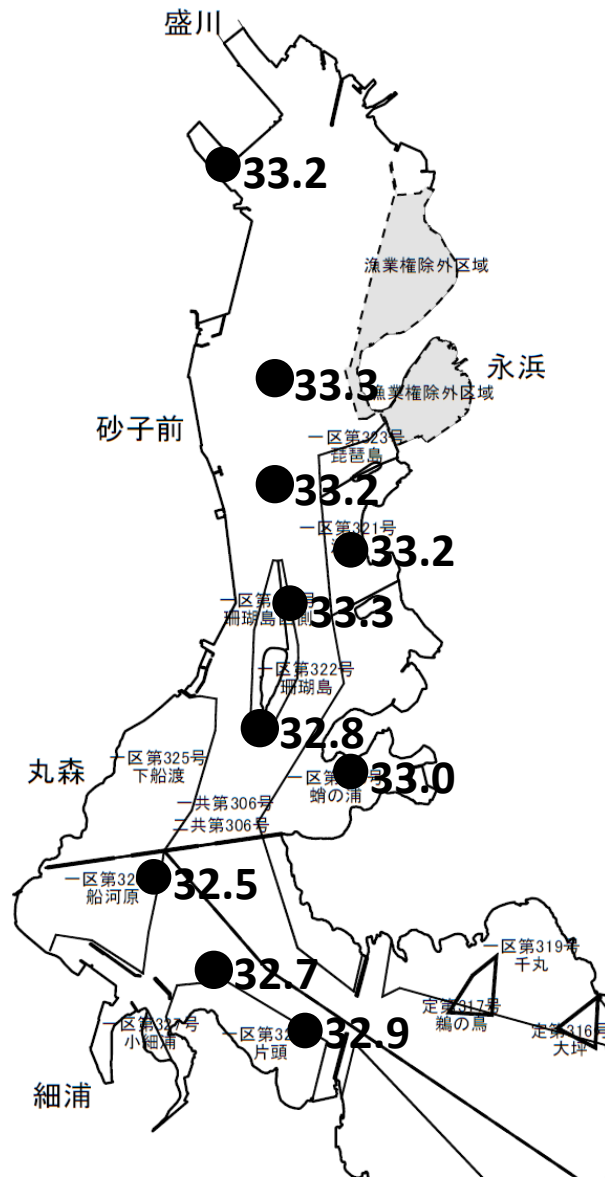
図4 水深10mの水温の推移



©岩手県（漁業権連絡図）

図5 水深2.5mの水温の分布

※湾外から湾内に流入する海水、陸から湾内に流入する河川水、降雨や気温の影響を受けて湾内の水温は変化する。



©岩手県（漁業権連絡図）

図6 水深2.5mの塩分の分布

※湾外から湾内に流入する海水、陸から湾内に流入する河川水、降雨の影響を受けて湾内の塩分は変化する。

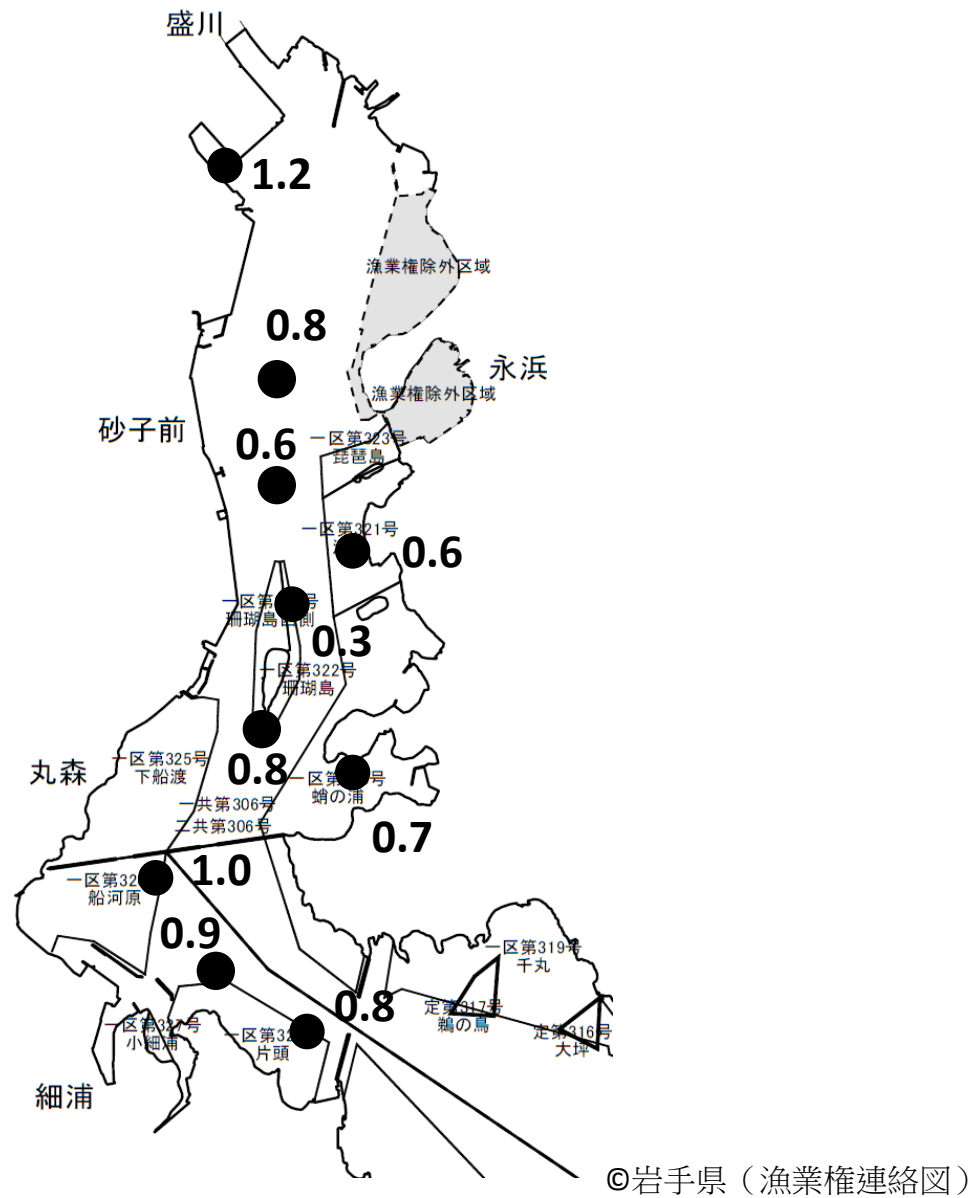


図7 水深2.5mのクロロフィルの分布

※クロロフィルは植物プランクトン量の指標であり、植物プランクトンは二枚貝やホヤ等の餌となる。観測機器での測定値のため参考値扱い。